



平成 29 年 9 月 8 日

各 位

会 社 名 トラストホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 喜久田 匡宏
(コード番号：3286 東証マザーズ・福証Q-Board)
問合せ先 専務取締役 矢羽田 弘
(TEL. 0 9 2 - 4 3 7 - 8 9 4 4)

(訂正) 「平成 29 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成 29 年 2 月 10 日に開示いたしました「平成 29 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

訂正内容と理由

「平成 29 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について、平成 29 年 6 月期決算作業の過程において、「その他」の区分のセグメントにて記載しておりました「メディカルサービス事業」は報告セグメントに該当することが判明したため、記載内容の一部訂正を行うものであります。

なお、訂正箇所は _____ を付しております。

【訂正箇所】添付資料 3 ページ

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

<訂正前>

⑤RV事業

RV事業につきましては、人材確保に時間を要したことで、最優先課題として取り組んでまいりました販売体制の構築に遅れが生じた影響もあり、販売台数を伸ばすことができませんでした。

以上の結果、売上高 181,412 千円(前年同期比 108.2%増)、営業損失 47,797 千円(前年同期は 52,338 千円の営業損失)となりました。

なお、平成 28 年 11 月には福岡県筑紫郡那珂川町に新店舗をオープンし、平成 29 年 1 月より営業人員を増員しております。引き続き販売体制の強化に努め、早期の収益改善を図ってまいります。

⑥その他事業

その他事業につきましては、警備事業、メディカルサービス事業等の既存事業は概ね堅調に推移いたしました。

新規事業としましては、第 1 四半期連結累計期間より、スキンケア商品「ミニユール」の販売を開始いたしました。また、トラストホームエナジー株式会社において、エネファーム及びオール電化等の住宅設備機器等の販売活動を開始、当第 2 四半期連結会計期間より受注を獲得できる体制となり、早期の収益化に向け注力してまいりました。

以上の結果、売上高 194,498 千円(前年同期比 7.3%増)、営業損失 67,051 千円(前年同期は 12,460 千円の営業利益) となりました。

<訂正後>

⑤メディカルサービス事業

メディカルサービス事業につきましては、「介護老人保健施設みやこ」及び「福岡信和病院」の賃貸収入等により概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高 94,761 千円(前年同期比 11.0%増)、営業利益 12,836 千円(前年同期比 46.5%減)となりました。

⑥RV事業

RV事業につきましては、人材確保に時間を要したことで、最優先課題として取り組んでまいりました販売体制の構築に遅れが生じた影響もあり、販売台数を伸ばすことができませんでした。

以上の結果、売上高 181,412 千円（前年同期比 108.2%増）、営業損失 47,797 千円（前年同期は 52,338 千円の営業損失）となりました。

なお、平成 28 年 11 月には福岡県筑紫郡那珂川町に新店舗をオープンし、平成 29 年 1 月より営業人員を増員しております。引き続き販売体制の強化に努め、早期の収益改善を図ってまいります。

⑦その他事業

その他事業につきましては、特に新規事業の早期収益化に向け注力してまいりました。第 1 四半期連結累計期間より、スキンケア商品「ミニュール」の販売を開始、エコ商品販売事業においては、エネファーム及びオール電化等の住宅設備機器等の販売活動を開始いたしました。

以上の結果、売上高 99,737 千円（前年同期比 3.9%増）、営業損失 79,888 千円（前年同期は 11,518 千円の営業損失）となりました。

【訂正箇所】添付資料 13ページ

3. 四半期連結財務諸表

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

<訂正前>

I 前第 2 四半期連結累計期間（自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	R V 事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,385,986	1,268,160	1,148,483	429,919	87,132	6,319,682
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,566	11,489	1,396	171	—	15,624
計	3,388,552	1,279,650	1,149,880	430,091	87,132	6,335,306
セグメント利益又は損失(△)	312,911	△186,021	45,146	△8,911	△52,338	110,786

	その他(注) 1	合計	調整額(注) 2	四半期連結損益計算書計上額(注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	181,332	6,501,014	—	6,501,014
セグメント間の内部売上高又は振替高	48,108	63,733	(63,733)	—
計	229,441	6,564,748	(63,733)	6,501,014
セグメント利益又は損失(△)	12,460	123,246	4,964	128,210

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去 201,036 千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△196,104 千円及び棚卸資産等の調整額 31 千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,167千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては70千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					計
	駐車場事業	不動産等事業	ウオーター事業	アミューズメント事業	R V事業	
売上高						
外部顧客への売上高	3,360,517	826,930	762,750	404,716	181,412	5,536,328
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,701	17,708	2,922	1,456	500	25,289
計	3,363,218	844,639	765,673	406,173	181,912	5,561,617
セグメント利益又は損失(△)	342,267	△232,718	△126,937	△36,130	△47,797	△101,316

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	194,498	5,730,827	—	5,730,827
セグメント間の内部売上高又は振替高	107,799	133,088	(133,088)	—
計	302,297	5,863,915	(133,088)	5,730,827
セグメント利益又は損失(△)	△67,051	△168,368	19,879	△148,488

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去214,769千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△194,919千円及び棚卸資産等の調整額29千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,520千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

<訂正後>

I 前第2四半期連結累計期間（自平成27年7月1日至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	
売上高							
外部顧客への売上高	3,385,986	1,268,160	1,148,483	429,919	85,336	87,132	6,405,019
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,566	11,489	1,396	171	二	—	15,624
計	3,388,552	1,279,650	1,149,880	430,091	85,336	87,132	6,420,643
セグメント利益又は損失(△)	312,911	△186,021	45,146	△8,911	23,979	△52,338	134,765

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	95,995	6,501,014	—	6,501,014
セグメント間の内部売上高又は振替高	48,108	63,733	(63,733)	—
計	144,104	6,564,748	(63,733)	6,501,014
セグメント利益又は損失(△)	△11,518	123,246	4,964	128,210

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去201,036千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△196,104千円及び棚卸資産等の調整額31千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,167千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては70千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	
売上高							
外部顧客への売上高	3,360,517	826,930	762,750	404,716	94,761	181,412	5,631,089
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,701	17,708	2,922	1,456	—	500	25,289
計	3,363,218	844,639	765,673	406,173	94,761	181,912	5,656,379
セグメント利益又は損失（△）	342,267	△232,718	△126,937	△36,130	12,836	△47,797	△88,480

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	99,737	5,730,827	—	5,730,827
セグメント間の内部売上高又は振替高	107,799	133,088	(133,088)	—
計	207,536	5,863,915	(133,088)	5,730,827
セグメント利益又は損失（△）	△79,888	△168,368	19,879	△148,488

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去214,769千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△194,919千円及び棚卸資産等の調整額29千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,520千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。